

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300066		
法人名	社会福祉法人サンシャイン福祉振興会		
事業所名	グループホームかわばた荘		
所在地	岐阜県加茂郡白川町坂ノ東5467番地1		
自己評価作成日	平成28年6月15日	評価結果市町村受理日	平成28年8月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191300066-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191300066-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年7月13日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり・やさしく・おだやかに」を理念に持ち、穏やかに生活していただけるよう支援している。本人のできることを把握し、維持できるよう家族との連携も密にしている。また、母体であるサンシャイン美濃白川や核事業所との連携を持ち、知人等との交流の場として行き来している。地域との交流の一環として、毎月1回食事を開催し、地域の方をお招きして、昼食やお茶を楽しむ機会を設けている。誕生日には本人や家族の希望を聞きながら、外出や外食の支援を行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域との協力関係を築き、地域に密着した運営を実践している。地域の風習や生活習慣を活かしながら、利用者の穏やかな暮らしを支えている。また、地域住民を、毎月一回、食事に招いて交流会を行ない、自治会とは、災害時の協力体制を築いている。医療面では、協力病院との連携と訪問医を確保し、終末期にも対応できる体制ができています。遠方の家族には、盆・正月・連休・終末時などに、食事付きで、長期宿泊ができるように、簡易ベッドを用意し、好評を得ている。管理者・職員は、利用者の思いに優しく寄り添い「ありがとう」の言葉に元気をもらいながら、質の高いサービスを支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ、常に意識して介護している。住み慣れた地域での生活が継続できるよう、多くの方に来所していただき、開かれた施設を目指している。	理念は、開設以来継承し、利用者の穏やかな暮らしを支援している。職員は、地域密着型サービスの意義を共有し、ゆっくりと優しく利用者に寄り添い、その人らしく、笑顔のある暮らしにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月発行のかわばた通信を利用者と一緒に配布したり、月1回の地域の方との食事会や花見や雛祭り等の行事等の交流の機会を設けている。野菜や花等をいただいたり、皆で作った朴葉餅をおすそ分けに行っている。	毎月「かわばた通信」を地域に配布し、住民を食事会や行事に招いて、交流会を行なうなど、日常的に交流している。ボランティアによる草取りの協力もある。事業所の防災訓練には、多数の住民が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族をはじめ、地域の方やボランティアの方にも来所していただいたり出掛けて行くことで、認知症の方を理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、入居者の代表にも参加してもらい、会議を開催している。法人内の3事業所と合同で開催し、広い地域の方に実践報告を行い、意見交換を行って意見をもらっている。	会議は定例化し、本人・家族、地域役職者を含め、地域に開かれた会議運営を行っている。終末期の医療対応やボランティアとの交流、運営上の課題などを話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や日頃から市町村担当者とは連携が取れており、協力関係ができています。	運営推進会議へは、町の保健福祉課担当者と地域包括支援センター担当者が毎回出席している。地域高齢者の福祉課題や待機者情報、介護認定、制度上の問い合わせなどで協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に「身体拘束委員会」があり、研修会を行っている。身体拘束について理解し、予防に努めている。基本的にいつでも出て行ける環境にあるので、常に見守りを行っている。事務所にポスターを掲示し、意識できるようにしている。	身体拘束をしないケアを実践している。言葉による拘束についても学び、言葉で行動の制限をしていないかを常に意識しながら、予防に努めている。基本的には、利用者の穏やかな生活環境を整え、介護の基本に心がけ、利用者と思慮疎通を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について理解し、予防に努めている。内出血があった場合にも報告し、言葉使いについてもポスターを事務所に掲示し、常に意識している。対応で息詰まる時等は、職員が交代するようにしている。		

岐阜県 グループホームかわばた荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の希望で成年後見制度の手続きを支援した。		
9	※	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の時、利用料金改定等があった時には分かりやすい言葉で、時間を掛けて説明している。不安や疑問点があった場合には説明し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見、要望については、面会時等に常に聞くよう対応をし、その都度職員に伝達している。職員会議において話し合い、実践に反映している。	利用者からの意見や、仲間同士の相性などを把握し、その都度、対処をしている。家族には、面会時には、常に声かけを行ない、思いや意見を聞くよう努めている。冷暖房の管理や歩行力向上のためのサポート等、要望を受け、それらを運営に反映させている。	社会福祉法人名「白泉会」から「福祉振興会」への変更が家族に伝わっていないので、周知と配慮が望ましい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議において、各職員の意見や提案を出し合い、事業に反映するようにしている。また、日々の取り組みの中での意見や提案も言いやすい雰囲気を作り、すぐに対応できることは反映するようにしている。	定例の職員会議は、職員の意見や提案を検討する場になっている。休憩時間の取り方や備品の管理、戸締りについて、また、利用者の誤薬防止、熱中症対策など、多様な意見や提案を話し合い、できることから速やかに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与や労働時間等は法人で統一されている。年度末には就業に関することを施設長と相談できる環境が設けられている。施設長等には日頃から相談援助のしやすい環境を作ってもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内や外部研修への参加、職員会議や日々の実践の中で意思疎通を図り、知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で知り合った同業者との交流や、中津川市にある施設との交流を持ち、情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人と家族で見学していただき、本人の希望や不安を理解するよう努めている。事前面接や来所時に本人の思いを伺い、少しでも受け入れていけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に見学に来ていただき、介護上の思いを聞くようにしている。本人同様、家族の思いを伺い、少しでも受け入れていくよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所当初は暫定的であるが、得た情報を基に介護計画書を作成し、少しでも早く生活に馴染めるよう心掛けている。在宅ケアマネとの連携を持ち、情報を生かせるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす姿勢を大切にしている。介護する際にはさり気ない介護をするよう心掛けている。梅干しやらっきょう漬、調理等では利用者の長年の経験からの教えを得ることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の家族への手紙や電話、面会時には生活や身体状況等を伝え、受診対応や家族の協力を得るようにしている。家族の宿泊の機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特養やデイサービス、近隣の施設へ出掛け、出会える機会を持つよう努めている。誕生日には本人や家族の希望を確認し、自宅やお墓参り、外食等の個別の外出援助を行っている。	利用者は、同法人の各施設へ、馴染みの人たちに会いに出かけている。また、訪問してくれるボランティアや知人との関係の継続を支援している。家族の協力を得て、買い物や墓参り、外食、自宅周辺などへ外出をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係(仲の良し悪し)を把握し、家事や娯楽の場面等において関わりが持てるよう配慮している。利用者が利用者の面倒を見ることがあるので、様子を見ながらやってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族の方が来所されたり、花や野菜等を差し入れてくださったり、地域で出会った時には家族の健康等を聞いたりできる関係が継続できている。入院で退居となった方のお見舞い等をして、関わりを継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、個別の時間を設ける等して、本人の思いや意向に耳を傾けている。表情等からも思いを受け入れるようにしている。面会時等には家族にも希望や意向を確認しながら支援している。	利用者の生活歴から、俳句や編み物などの趣味や、こだわり、苦手なものなどを把握している。日常の暮らしの中で、利用者の話に耳を傾け、表情や問いかけの反応を汲み取り、思いに添った暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用が始まる前に、本人や家族から生活歴を伺い、生活に反映できるようにしている。面会時や普段の生活の中で、情報把握に努めている。面会時の気付きを家族から伺い、こちらの情報を伝えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の把握や毎日の状況や発言などの把握に努めている。できることやできたこと、またできないこと等を発見した時には職員間で伝達し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の状況を把握し、本人や家族の意向に沿えるよう介護計画書を作成している。毎月の職員会議で話し合い、計画に反映させている。	担当者会議を開き、関係者の意見を集約して、介護計画を作成している。家族が欠席の場合は、事前に意向を確認している。利用者が、役割を持って暮らし、生活習慣が継続できるよう、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は全ての職員がケース記録に記載し、注意していく事柄等については伝達ノートに記載し、情報を共有するようにしている。職員会議において再確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や受診等、柔軟な対応ができるよう努めている。入居者が皆同じケアにならない様、個々に合ったケアに努めている。		

岐阜県 グループホームかわばた荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に散髪や化粧、話し相手となってもらっている。年3回の消防訓練や小学校(作品展見学)等との関わりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診対応は家族と職員で行っている。家族との連携を密にして、受診結果を報告し合っている。必要に応じて眼科や歯科、整形外科受診対応も行っている。	かかりつけ医院は、ホームの近くにあり、通院や緊急時の場合、対応しやすい。入院が伴う場合は、複数の病院と連携をしている。また、利用者の症状や状態によって、訪問医による適切な医療体制も整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきのあった時にはすぐに伝達し、相談している。必要に応じて、緊急受診対応もしている。また看護職不在時や急変時、夜間は母体である特養の看護職と連携が取れる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	できるだけこまめに病院へ足を運び、本人の状況把握に努め、家族や病院関係者からの情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の対応方針を文章で明確にしている。早い段階から話し合い、事業所でできることを説明し、揺れ動く家族の思いをその都度受け止め、話し合っている。主治医や母体特養看護職との連携を密にしている。	重度化や終末期の方針を明確にし、本人・家族に説明し、同意を得ている。症状や状態の変化に応じ、関係者で話し合い、医療機関や介護施設への選択ができる。母体の特養看護職との連携で、終末期の支援体制も整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修に参加し、AEDの使い方等の訓練を受け、実践力を身に付けるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の消防訓練の実施。夜間訓練も含め、自治会との応援協力体制を築いている。ハザードマップをもらい掲示している。	災害訓練の2回は、法人合同で行い、1回は、夜間を想定して、独自に実施をしている。訓練は、通報・初期消火・避難誘導など自治会と連携して行っている。備蓄品は、国道を挟み、法人本体に備えている。	最近の気候変動は顕著で、各地に想定外の災害が起きている。グループホーム内にも、最小限の備蓄が望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の声掛けや入浴時の対応、更衣時には戸を閉める等、プライバシーや声掛けの仕方に十分注意している。自分が利用者だったということを考えながら支援している。	ケアの場面では、指示的、強制的にならないように努めている。利用者の誇りやプライバシー、羞恥心に配慮をし、穏やかな言葉かけを心がけ、常に、利用者を先輩として敬い、笑顔で接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時や入浴時の衣服の選択やおやつやお茶、外出等の選択ができるよう働きかけている。朝食は個々の起床時間に合わせて提供している。誕生日には希望メニューが提供できるようにしている。自己決定できるよう、一呼吸置くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や外仕事、居室での自分の時間等、本人の希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時、外出時等には自己にて衣服を選んだり、化粧やヘアピース、アクセサリーを付けたりすることができるよう支援している。理美容院の利用については、本人の意向に沿うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や調理、盛り付けや配膳、下膳も一緒にしている。職員も一緒に食べ、食材や食べたい物等の話をしながら、季節の食材や郷土料理を献立に取り入れている。椅子への移乗や踏み台等を使用して、食べる姿勢にも配慮している。	利用者は、食事の準備や片づけなど、進んで関わっている。職員と一緒に同じものを食べながら、好みの献立や味付け具合などを話題にしながら、楽しさと美味しさを共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録し、個々に合わせた量や形態、食器で対応している。好き嫌いについては、代替食を提供している。とろみを付けて飲み込みやすくしたり、お茶が飲めない方にはその他の飲み物を提供して、水分摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケア援助を行っている。必要に応じて洗口液を使用したり、歯科受診も対応している。施設内研修にも参加している。		



岐阜県 グループホームかわばた荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録し、排泄パターンを把握し、個々に合わせた声掛けやトイレ誘導を行い、トイレでの排泄に心掛けている。個々に合った紙パンツやパッドを検討し、失禁を減らすよう支援している。紙パンツ使用がなくなった利用者もある。	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄につなげている。居室は、トイレ付きであり、失敗のないように支援をしている。夜間も、重度者2名を除き、布パンツと利用者に合ったパッドを使用し、声かけとトイレ誘導を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄リズムを把握し、食事内容や水分摂取量、運動等に配慮している。起床時と就寝時に水分を摂る習慣を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の気分を大切にし、ゆっくりと入浴できるよう一人30分の時間を設けている。週3回から4回の入浴を行っている。入浴を希望されない時には、次の日にする等の対応をしている。季節の湯(菖蒲や柚子等)を楽しんでもらっている。	入浴は、本人の希望やこだわりによって支援をしている。気持ちが乗らない場合は、時間を変えたり、気分転換を工夫し、羞恥心にも配慮をしながら、ゆったりと、楽しい時間を味わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の休憩や就寝時間は個々に合った時間に対応している。照明や室温、衣服等に配慮している。寝付けない時には、温かい飲み物の提供をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は常時閲覧できるようにしている。誤薬防止のため、準備と服薬助動と段階を得て確認するようにしている。変更等のあった場合はその都度伝達している。こまめに主治医に状況を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や洗濯物たたみ、洗濯物干し、掃除等を生かせるよう支援している。化粧やお茶クラブへの参加や散歩を兼ね、知人に会いにデイサービス等へも出掛けている。自宅での習慣であったワインとチーズやおやつを提供を継続している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	草取りに行きたい方には、常時行けるよう支援している。買い物や兄弟姉妹に会いに出掛けられるよう支援している。家族やボランティアの協力を得て、外出や花見、夏まつりに参加している。天気の良い日にはバルコニーでお茶をする時間を設けている。	事業所周辺を日常的に散歩し、畑仕事をしたり、バルコニーなどで、外気に触れている。家族やボランティアの協力を得て、季節の行事、親戚訪問、買い物などへも出かけている。同法人施設への外出も支援している。	



岐阜県 グループホームかわばた荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物や日用品の購入ができるよう支援している。小額所持している方もある。金融機関での引き出しの介助も行っている。(お年玉やお祝い金)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	週3回家族から電話がある方の対応や、姉妹知人への電話対応を行っている。年賀状やはがき、手紙の投函までの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の掃除や季節の花や作品、写真の掲示をしている。自宅で育てていた植物を持参している方もある。居室の照明は個々の希望に沿うようにしている。朝は味噌汁の匂いを感じていただけるよう、各ユニットで作っている。冬場の湯たんぽの使用については、個々の状況に応じて対応している。	共用空間は、天然木の造りで、生活感に満ちている。随所に季節の花を飾り、はり絵の大作や装飾品にも趣きがある。台所からは、食事づくりの匂いが漂い、窓越しの景観に季節感がある。畳のコーナーは利用者の憩いの場であり、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチ、和室やバルコニー等の他、もう一つのユニット等、居室以外にも自由に過ごせる空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるたんすや鏡台、可動式テーブル等を持参していただいている。家族等と過ごせるよう椅子を設置したり、ソファを設置している方もある。自由に壁に作品を掲示してみえる。	居室には、トイレ、洗面台、収納ケースを備えている。馴染みの物を、自由に持ち込み、好みに配置をして、安心して暮らせるように工夫をしている。表札は、利用者の目線にあり、分かりやすい大きさである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下等の共用部分には必要以外の物ではできるだけ置かないようにし、安全に配慮している。居室入口には表札を付れたり、トイレの場所がわかるよう張り紙をしている方もある。		